

令和4年度 自己評価結果票

社会福祉法人三原のぞみの会
幼保連携型紅梅認定こども園

1. 教育・保育目標

◆子どもの発達の連続性を考慮した環境の中で、0歳から就学前までの一貫性のある教育・保育を行い、一人ひとりがその子らしさを発揮し、共に育ち合う生活を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

<めざす子ども像>

- ・自分のしたい事に夢中になって取り組む自分大好きな子ども
- ・友だちと心を通わせてあそびや生活を作り出せる友だち大好きな子ども
- ・自然の神秘さや不思議さに感動し生き生きとあそぶ自然大好きな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標

◆幼稚園・保育園の機能を併せ持ち、地域の子育て支援の充実を図る。

- 1、新しい園舎で環境等、体制づくりを確立していく。
- 2、保育教諭の質の向上・教育・保育内容の充実を図る。
- 3、地域子育て支援を充実（地域全体を見廻し子育て支援を行う）
- 4、職場環境の改善をし、人材の確保・育成・定着に繋げる
- 5、感染症対策、大規模自然災害への対応にそなえる

3. 教育及び保育の内容の概要

- ・0歳児 特定の保育教諭との応答的なかわりの中で、安心して過ごせるように情緒の安定を図る。
- ・1歳児 一人ひとりの気持ちを理解・受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。
- ・2歳児 自己主張をしたり、反抗したりするときの一人ひとりの気持ちを受け止め共感し、自我の育ちを援助する。
- ・3歳児 自我の成長を踏まえ、子どもの気持ちや考えを受容し、主体的な行動を促していく。
- ・4歳児 自分の力を発揮していく中で、「達成感の喜び」や「満足感」を味わい、自信を持って行動できるようにする。
- ・5歳児 自分への自信と友だちへの親しみや信頼感を高めていくようにする。

4 . 成果

- 1、新しい園舎で、新体制になり、職員間の連携をより一層丁寧に行っていくよう努めた。新型コロナウイルス感染症の状況に左右される中、職員は、子どもや保護者への責任を果たすべく、安全面に気を付けながら努めていった。
- 2、職員の資質の向上に向けて、キャリアアップ研修等様々な研修計画を立てていった。新型コロナウイルス感染防止対策でオンライン研修が主となった。状況を見ながらで研修体制が確保できたものもあった。
- 3、新型コロナウイルス感染防止対策として、地域との様々な交流等を断念せざるを得ない状況があった。その中でも規模を縮小したり色々工夫しながら支援に繋げた。
- 5、豪雨災害をはじめ様々な災害が心配な中、月1回の避難訓練を通して災害時に備えた行動確認を行った。また新型コロナウイルス感染症の感染対策を常に考慮しながら様々な行事の実施判断など一つ一つ運営を慎重に行った。
- 6、新園舎の活用をみんなで考えて、行事にとりくんでいった。何もかもが初回だが、職員が知恵を出し合って工夫して行うことが出来た。

5. 課題

1. 新たな職員体制の確立及び意識統一を図る。
- 2 . 新しい組織体制の下、理念、保育目標、目指す子ども像を全職員で再構築し、具体的な教育・保育内容の実践に努める。
- 3 . 職員確保(保育教諭)・人材育成の実行。職員のやりがいや職務内容の充実・意識化を図る。
- 4 . 新園舎の環境を整え、役割分担を明確にし、スムーズな運営をする。
- 5 . 新型コロナウイルス感染症の流行や、大きな災害が発生していることに鑑み、引き続き感染症対策及び災害対策に努める。(地域と連携)

6 . 財務状況

当法人監査により、適正に運営されていると認められている。